

掛川市内で唯一埴輪を生産

ほしかわようあと 星川窯跡

- 1 出土地点 掛川市大坂
- 2 調査時期 昭和 60 年

星川窯跡は、小笠山丘陵の南端、谷の奥まった部分に位置しています。道路建設工事により発見され、緊急調査が行われました。

星川窯跡は、古墳時代後期（約 1,450 年前）に操業していた窯で、掛川市内では唯一、埴輪を生産していました。調査では、長さ 2.5m、幅約 1m の窯体が確認され、4 回以上修復して使用されていたことがわかりました。窯跡に残されていたものは、製品として使用できない焼き損じ（不良品）で、大きくゆがんでいたり、割れていたりしているものばかりでした。出土した須恵器の作り方から袋井市にある衛門坂古窯跡で須恵器や埴輪を製作していた人々が、星川窯跡を開いたと考えられています。ここで製作された埴輪は、菊川市の高田ヶ原古墳（菊川市半済）で、使用されています。古墳時代後期の埴輪の流通を知る貴重な資料です。



口縁部が大きくゆがんだ朝顔形埴輪



窯跡に残されていた埴輪片



不良品として残されていた須恵器

明和 7 年（1722）5 月 21 日（陰暦）、現在の長谷小出ヶ谷地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届け出されました。掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、出土文化財展を開催しています。



文化財愛護シンボルマーク

掛川市教育委員会 社会教育課 文化財係
電話 (0537) 21-1158



日時：平成 28 年 6 月 22 日（水）～ 6 月 28 日（火）
場所：掛川市立中央図書館 1 階生涯学習ホール

平成 27 年度に整理調査を実施した遺跡

よしおかしたのたん 吉岡下ノ段遺跡(第 11 次)

- 1 調査地点 掛川市吉岡
- 2 調査原因 茶園の改植
- 3 調査期間 平成 26 年 7 月～平成 26 年 11 月

吉岡下ノ段遺跡は、原野谷川が形成した吉岡原と呼ばれる台地（河岸段丘）に位置する縄文時代中期から平安時代にかけての遺跡です。

調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）から古墳時代中期（約 1,600 年前）にかけての竪穴住居跡 19 軒、平地住居跡 1 軒、掘立柱建物跡 2 棟、布掘り掘立柱建物跡 1 棟のほか、多数の小穴が確認されました。竪穴住居跡は、数軒が重なり合って確認され、集中して利用していたことがわかりました。また、600 点を超える大量の土器が出土しました。出土した土器は、ほとんどが破片で、古墳時代前期（約 1,700 年前）を中心に縄文時代中期（約 5,000 年前）から古墳時代中期の土器が出土しています。土器の多くは日常生活で使用された壺、甕、高坏ですが、祭祀に使われたと考えられる小型の土器や滑石製の勾玉が出土しており、祭祀の場として使用されていたと考えられます。



竪穴住居跡



土器が出土した様子

よしおかしたのたん

吉岡下ノ段遺跡(第12次)

- 1 調査地点 掛川市吉岡
- 2 調査原因 茶園の改植
- 3 調査期間 平成26年10月～平成27年2月

調査では、古墳時代前期の竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡1棟と多数の小穴を確認しました。全体の大きさが確認できた竪穴住居跡は2軒で、その平面の形は、ほぼ正方形でした。大きさは、1軒が4m四方、もう1軒は6m四方です。4m四方の住居跡からは、炭化材が多く出土したことから、火災にあったと考えられます。6m四方の住居跡からは桃の種が2つ、土器と共に出土しました。桃は魔よけの力があるといわれており、祭祀に使用されたのかもしれない。



火災にあった竪穴住居跡

平成27年度 掛川城御殿修復事業

江戸時代の工法を知る!

かけがわじょうごてんしきだいげんかんそせき

掛川城 御殿式台玄関礎石

- 1 調査地点 掛川市掛川
- 2 調査原因 掛川城御殿修復事業
- 3 調査期間 平成27年11月～平成28年3月

掛川城御殿は安政地震で倒壊した後、安政2年(1855)から文久元年(1861)にかけて再建されました。全国で4例しか残っていない御殿建築の1つで、国の重要文化財に指定されている大変貴重な建物です。

今回の修復工事では、濡縁や漆喰の壁の修理、ヒビ割れていた玄関の礎石の取替えを行いました。礎石は2つに分かれており、鉄の芯でつながっていました。地震に強くするための工夫と考えられますが、結果として鉄の芯が錆びて膨らみ礎石が割れてしまったようです。



式台玄関礎石

寄贈された考古資料

120年ぶりの里帰り

ひさごづかこふん

瓢塚古墳出土遺物

- 1 出土地点 掛川市吉岡・高田
- 2 発見時期 明治30年代

瓢塚古墳は、国の史跡に指定されている和田岡古墳群の一つで、古墳時代中期(約1,500年前)に造られた全長63mの前方後円墳です。

明治30年代(約120年前)に調査され、埋葬施設は木棺を粘土で覆った粘土槨で四獣形鏡1、捩文鏡1、勾玉2、管玉2、鉄剣片1、鉄鏃片3が発見されました。今回、これらの出土遺物が、掛川市へ寄贈されました。今後は、保存処理を行い、貴重な資料として活用していきます。



2面の青銅鏡



勾玉と管玉

古墳時代の鏡が新発見

おかつばら

岡津原出土の鏡

- 1 出土地点 掛川市岡津
- 2 発見時期 平成26年

岡津原は、原野谷川が形成した独立丘陵です。鏡は、丘陵の西縁辺部の茶畑脇で発見されました。古墳時代中期に製作され古墳に埋葬されたと考えられる斜縁四獣鏡で、直径12cmのほぼ完全な形です。岡津原には、縄文時代から古墳時代の遺跡が広がって



発見された斜縁四獣鏡

ますが、これまで奥ノ原古墳(消滅)で画文帯神獣鏡、西岡津古墳(消滅)で変形獣文鏡が発見されています。現在も丘陵縁辺部には、古墳や横穴が立地していますが、鏡の発見された場所には古墳の存在は知られていません。今回の発見は、既に消滅した有力古墳の存在を裏付けるものです。